

学校訪問 ⑥

育まれる奉仕の心

布寄小学校

今回訪れたのは、布寄小学校（成羽町長地・藤田従道校長）。今年の春には4つ子ちゃんが入学し、話題になりました。

「子どもたちは自ら進んで活動し、明るく元気いっぱいです。また、地域との交流も盛んで、地域の皆さんに見守られてすすくと育っています」と藤田校長は話します。

子どもたちの朝は、校庭の清掃



落ち葉掃き

から始まります。冬の近づいた時期には、校庭の落ち葉掃きをみんなどで行います。上級生が率先して行うことで下級生にもこの伝統が受け継がれています。「朝は寒いけど、学校がきれいになると、とてもすがすがしい気持ちになります。これからも学校をきれいにしていきたいです」と話すのは6年生の大福健介くん。

また、地域の皆さんとの交流は年間を通じて行われており、地域の長寿会から講師を招き、菊作りやサツマイモ作りなどにも取り組んでいます。大輪の花を咲かせた菊はグループホームささゆり苑や特別養護老人ホーム鶴寿荘などに寄贈され、学校の畑で育てたサツマイモは子どもたちがアイディアを出し合い、毎年違ったメニューで講師や地域の皆さんへ振舞っています。

地域の高齢者にお弁当を届ける



子どもたちが栽培した菊

給食サービスでは子どもたちの書いた手紙が添えられます。地域の皆さんから感謝の手紙が送られてくることも多く、6年生の若原滴さんは「皆さんが手紙を喜んでくれるし、お返事ももらえるのでこれからも続けていきたいと思っています」とうれしそう。



ふれあい芸能発表会

今は来年1月24日(日)に地域全体で行われる「ふれあい芸能発表会」に向けて練習を重ねています。6年生の高下郷美さんが意気込みを話してくれました。「4月からハンドベルの練習をしています。今年はやさやか音楽会が中止になったので、その分、発表会で素晴らしい演奏をしたいです。ぜひ見に来てください」

栄光をたたえます

文化やスポーツ活動の全国大会出場、それに準じる成績を収めた人・団体を紹介します。

◆川上桂二さん(川上町上大竹)
◆鹿島義雄さん(川上町上大竹)

いずれも望の丘ワークセンター



トキめき新潟大会ソフトボール競技で優勝。「なかなか実感がわかないが優勝できてうれしい」(川上)

「全国優勝という目標を達成できてうれしい」(鹿島)



◆中上裕子さん(有漢町有漢)鳥城クラブ
全国青年大会バレーボール競技に出場。「予選リーグで敗退して悔しい。次回チャンスがあれば頑張りたい」



神楽面に魂を吹き込む

面彫り同好会 (有漢町)



平成18年10月、公民館活動の一環としてスタート。最初の1年間は講師に指導してもらい、その後はこの会の代表で木工に携わっていた藤森武士さん(70)を中心に月1回活動しています。現在の会員は16人で、姫路市から通っている会員も。

面は、人の顔ほどの大きさのケヤキ、キリ、クリなど荒原木を使って制作。原木の平面に、顔や目鼻の位置を書く「割り出し」という作業から開始します。「割り出しに神経を集中します。割り出しは作品の善し悪しを左右しますから」と藤森さん。荒彫りし、

作業場に、木の香りとともにピンと張り詰めた空気が漂います。有漢町で活動している面彫り同好会の皆さんです。



紙やすりなどで丁寧に磨き、つやを出します。ケヤキを使った作品は色を塗らないものが多いようですが、作品や木の種類によっては、色を塗って仕上げます。

蛭田文夫さん(68)は、「絵付けの色を間違えたらせつかくの作品が台無し」と話し、秋葉正友さん(68)は「老後の楽しみと思って取り組んでいます」。また、秋葉勝己さん(70)は、「完成したときの喜びは大きいですよ」とそれぞれ笑顔で話します。

1つの面を作り上げるには40時間以上にも及ぶという面彫り作業。皆さんの作品は、2月上旬に開催のうかん文化祭(会場・有漢生涯学習センター)に展示されます。

